プレスリリース

平成２８年３月９日

報道関係者各位

仙台ジュニアスポーツインテリジェンスプログラム
活動開始のご案内

主催　TOMA Dream School SENDAI 代表 色川冬馬
特定非営利活動法人 TEAMi 理事長　板垣光則

１．各業界のプロと連携したスポーツによる子どもの教育の実現

仙台ジュニアスポーツインテリジェンスプログラム（以下「仙台 JSIP」）とは、アスリートの自立支援に向けた教育プログラムです。仙台 JSIP では、子ども達の教育に各業界のプロフェッショナルな強みを生かす為、子ども・地域・企業を繋ぐ役割を担っております。各業界プロのマインドに子どもが実際に触れる事は、海外に出る事と同様の価値があると考え「新たな価値観や考え方」を育む事を目的としております。

２．充実の講師陣

【仙台 JSIP 講師一覧】2016/02/23 現在

- 深松努氏（株式会社深松組代表取締役社長）
- 畠山明氏（家庭教師のアップル社長）
- 板垣光則氏（特定非営利活動法人 TEAMi 理事長）
- 峯岸宏典氏（株式会社一条工務店宮城、SD-LED’s 会長）
- 藤野哲平氏（仙台８９ERS）
- 中野宏一氏（THE EAST TIMES 代表）
- 菅原啓太氏（株式会社清月記）
- 色川冬馬氏（野球パキスタン代表監督）

３．企画背景：ジュニア期における仙台JSIPの役割

ライフスタイルの多様化に伴い、スポーツ界でもアスリートライフの形が多様化しております。近年では、現役の日本代表選手でありながら、海外でのプレイとオーストリア３部のサッカーチームオーナーを兼任する本田圭祐氏がいたり、中学生の頃から海外を転戦し、世界テニスを牽引する錦織圭氏がいたりと、スポーツ界を取り巻く環境も同様に多様化しております。さらに、インターネットの急速な普及により、全世界の情報を子どもでも容易に手に入れる事ができる様になり、目標達成に向けた情報の取捨選択が難しくなってきております。日本でも２０２０年に東京オリンピック開催が決まり、スポーツの在り方や価値が改めて議論され始め、各地でジュニア育成のプログラムがスタートしております。仙台JSIPでは、地域・企業との「距離の近さ」という強みを活かし、子どもの知的教育の為に地域企業が各々の強みを提供していきます。

４．今後の活動予定：スポーツの枠を超えた交流・知的な刺激による教育

今年度は、「TEAMi」と「南仙台ボーイズ」合同で、各種講座を受講していきます。競技の異なる中学女子と男子が、スポーツの枠を超えて交流する事で、新たな価値観を創造する事を目的としています。また、今後も参加する競技・チーム数が増えるよう継続的に活動していく次第です。

日時	題目	講師	形式	対象
４月	夢中力とレジリエンス	色川冬馬氏	講演	全世代
４月	子どもとの向き合い方	畠山明氏	講座	保護者
５月	プロスポーツ業界	藤野哲平氏	講演	全世代
６月	大震災で建設業界が果たした役割	深松努氏	現場視察&講演	中高生
８月	地域企業の想い	峯岸宏典氏	講演	全世代
１０月	葬祭業界のマナーと向き合い方	菅原啓太氏	講座	全世代
１１月	情報リテラシー	中野宏一氏	講座	子ども
１２月	トップアスリートに必要な心構え	板垣光則氏	講座	子ども

５．実施団体について

◆　特定非営利活動法人　「TEAMi」

宮城県を拠点として、バレボール競技を通して、子ども達に「スポーツの価値」を伝える為に選手育成活動を実施。技術練習に加え、将来トップ選手に求められる「自らを客観的に見る力」「人との繋がりを創れる力」「夢を追いかけ、追い続けられる心の力」の成長を促す事を目指し「知的開発プログラム」も展開している。

➢　板垣光則：特定非営利活動法人 TEAMi 理事長

１９７１年宮城県加美町生まれ、東北学院大学卒。２００１年 TEAMi バレーボールクラブを東北で初めて立ち上げ、大学や専門学校と連携しトップジュニアアスリートの育成を始める。これまでに佐藤あり紗（日立）渡邉彩（仙台ベルフィーユ）など全日本代表や数多くのＶリーグ選手を育てる。

◆（公財）日本少年野球連盟　東北支部「南仙台ボーイズ」

宮城県を拠点に活動し「目的に向かって勇気と覚悟を持って挑戦する次世代のアスリート育成」を目的とする中学生の硬式野球チーム。２０１６年４月に活動を開始し、これからのアスリートとして必要な資質を身に付ける為、野球だけではなく「知的開発プログラム」にも積極的に参加している。スポーツの多様な価値を理解し、不確実性の多い未来に対して強く生き抜ける人材を目指し育成を行っている。

➢　色川冬馬：南仙台ボーイズ監督

1990 年仙台市生まれ。聖和学園高校、仙台大卒。大学在学中にメジャーリーガーを目指し単身渡米。２年後独立リーグと契約。米・メキシコ・プエルトリコ等のリーグでプレーした後、２０１３年現役引退。２０１４年イラン代表監督就任。２０１５年、イランを西アジアカップで準優勝に導き、パキスタン代表監督に就任。９月のアジア選手権でパキスタン代表を初の WBC 予選出場へ導いた。リトルリーグのラテンアメリカ野球選手権日本代表監督も務める。

【仙台 JSIP に関するお問い合わせ】

TOMA Dream School SENDAI 事務局

〒982-0011　仙台市太白区長町３丁目 9-10（エフエムたいはく株式会社内）

電話 022-304-5121　ＦＡＸ 022-304-5127 メールアドレス： tomasendai@gmail.com　担当：色川　冬馬

がんばろう！東北

FUKAMATSU

～地域建設産業の使命～
地域建設業の啓開活動の効果
東日本大震災の直後になされた道路や港の啓開活動が、救援部隊の移動、物資輸送、人々の避難に大きく役立った。
整理整頓
重機・土砂
なくそう!!
深松組

日本を支える。
～地域建設産業の使命～
人手解消のために行政も支援開始
■最近の建設産業
職人の賃上げ要請へ＝デフレ脱却、人手不足解消目指す
建設業界に初の通達・国交省
建設業界に要請する方針を固めた。国交省がこうした要請を行うのは初めて。全国に310万人いる建設関連の職人の所得を向上させ、安倍政権が目指すデフレ脱却を後押しする。また、待遇改善によって職人の増加を促し、建設現場の恒常的な人手不足の解消を目指す。
地域を作り、人々の生活を支える、
地域建設産業の発展に
今、大きな期待が寄せられている
墜落・重機・土砂
災害をなくそう!!
株式会社 深松組

～地域建設産業の使命～
日本を支える。
人手解消のために行政も支援開始
■最近の建設産業
職人の賃上げ要請へ＝デフレ脱却、人手不足解消目指す
建設業界に初の通達・国交省
建設業界に要請する方針を固めた。国交省がこうした要請を行うのは初めて。全国に310万人いる建設関連の職人の所得を向上させ、安倍政権が目指すデフレ脱却を後押しする。また、待遇改善によって職人の増加を促し、建設現場の恒常的な人手不足の解消を目指す。
（時事通信）2013/3/29
地域を作り、人々の生活を支える、
地域建設産業の発展に
今、大きな期待が寄せられている

～地域建設産業の使命～
日本を支える。
人手解消のために行政も支援開始
■最近の建設産業

2016年6月17日掲載　建設新聞

深松組

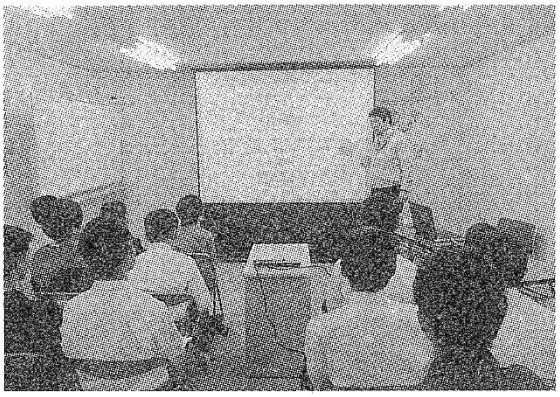
少年野球チーム対象に現場見学会

地域建設業の役割と活躍を伝える

深松組（深松努社長）は15日、少年硬式野球チーム「南仙台ボーイズ」に所属する児童・生徒とその父兄らを対象に、現場見学会と深松社長による講演を実施した。同社が施工する「名取市閖上下流工区堤防復旧工事」を見学したほか、深松社長が「日本を支える～地域建設産業の使命～」をテーマに講演。地域を支える建設業の役割や、東日本大震災時の活躍を生徒たちに伝えた。

現場見学の様子

南仙台ボーイズは仙台市を拠点に、ことし4月に始動した小・中学生を中心とする硬式野球チーム。チームを率いる色川冬馬監督は約3年前、米独立リーグへの入団テストの挑戦を志して渡米。その際にプエルトリコの少年野球チームの監督から、「被災地の子どもたちをラテンアメリカ選手権に招待したい」との提案を受けた。渡航後の滞在費は先方で工面するというものの、渡航費用は負担しなければならなかったため、色川監督の挑戦に関心を抱き、交流を持っていた深松社長らが支援した。



深松社長の講演

その後、色川監督は南仙台ボーイズで、所属する生徒に向けてさまざまな業種の社長に講演してもらう取り組みを開始。今回は地元建設業として、深松社長が現場見学会と講演をすることとなった。

当日は、作業所長の矢野拓見氏の案内の下、生徒らは震災前と震災後の航空写真を比較しながら、工事の状況の見学。矢野所長は「再び巨大な津波が発生しても地域の皆さんを守れるように、日夜たくさんの作業員が頑張っている」と解説した。

その後、現場事務所で深松社長が講演。「公共事業や社会資本とは」といった基礎知識から、東日本大震災発生後の道路啓開を中心とした地域建設業の活躍を解説した。この中で深松社長は、「安心・安全・快適・豊かな社会資本と、地域の資産を造ることが地域建設産業の役割。自分のまちを知り尽くした町のお医者さんとして活躍している」と強調。生徒たちは熱心に耳を傾けていた。

FUKAMATSU

2016年6月17日掲載　建設通信新聞

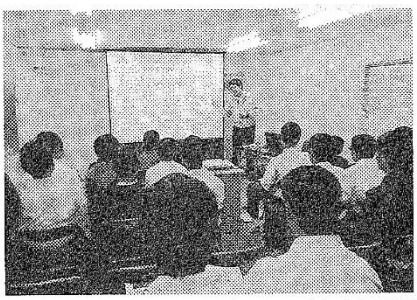
建設業の役割アピール

名取川閖上上下流堤防災復工事

深松組（仙台市、深松努社長）は15日、同社が施工している東北地方整備局発注の名取川閖上上下流工区堤防災害復旧工事の現場で、小中学生を対象とする見学会を開いた＝写真。

見学したのは、仙台市を拠点に活動する硬式野球チーム「南仙台ボーイズ」に所属する小中学生とその父兄ら26人。深松社長は、チームの監督で野球を通じた子どもたちの国際交流にも力を入れている色川冬馬氏の活動に賛同し、海外への渡航費などを支援している。今回、色川氏から職業教育の一環として建設業について学ばせたいとの

深松組、野球少年対象に現場見学・講演会



講演する深松社長

要請があったことから、社会貢献活動として受け入れた。

この日は、現地で同社の矢野拓見所長から被災地の状況や復旧工事の概要などについての説明を受けながら、進められている堤防工事を見学した。

この後、現場事務所で深松社長が「建設業が果たす役割と魅力について」と題して講演し、公共工事や社会資本などの言葉の意味やその重要性、建設産業の構造、東日本大震災時に地元建設企業が担った役割などを分かりやすく説明した。子どもたちは、初めて知る建設業の重要性や震災時の対応などに驚きの表情を浮かべながら、熱心に聞き入っていた。

深松社長は「建設産業への入職者が減少する中、１人でも多くの子どもに職業の選択肢の１つとして興味を持ってほしい」と話した。

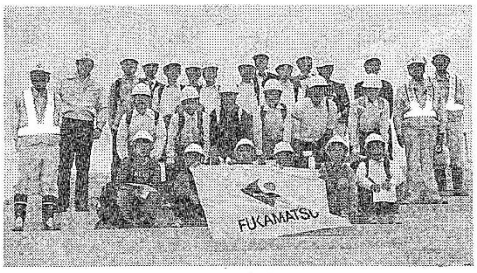
2016年6月17日掲載　日刊建設産業新聞

閖上の堤防現場で見学会

深松社長「建設業は意義ある仕事」

中学野球チーム25人が参加

深松組



深松組（深松努社長）は15日、名取川閖上下流工区堤防災害復旧工事で、仙台市を拠点に活動する中学生硬式野球チーム「南仙台ボーイズ」（細川篤志代表）の選手など約25人を対象に現場見学会を行った。

矢野拓見現場代理人は「子どもたちに堤防の意義や建設業の重要性を少しでも分かってもらえればうれしい」とし、現場での取り組みを紹介した。

同工事は、東日本大震災で被災した堤防の復旧工事で、名取川右岸閖上上水門から下流河口部までの区間延長L３１０・０㍍を深松組が施工を担当。下流区間の堤外側地盤改良工Ｖ１万１２００立方㍍を施工後、護岸基礎工Ｌ１００㍍を施工。暫定施工の堤防区間の築堤盛土を行い、法覆護岸・天端被覆等の護岸工事を施工する。工期は16年7月20日まで。

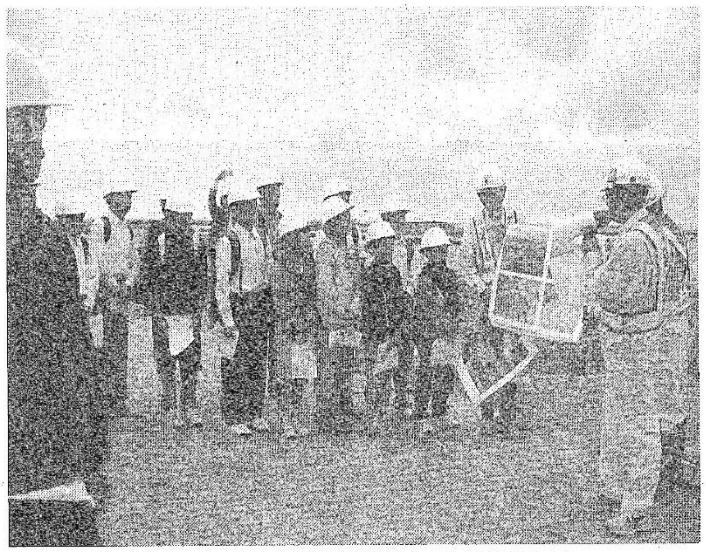
見学会終了後には、「日本を支える～地域建設産業の使命～」をテーマに深松努社長による講演も行われた。

深松社長

深松社長は「建設業は社会資本を整備する大事な公共事業を担っている」と、東日本大震災発災当初、建設業が果たした役割を説明。このなかで「自衛隊員などが津波被災地に向かうためには、われわれ建設業者が道路を覆ったがれきを取り除く必要があった」と当時を振り返りながら、「建設業は命を守る役割も担っている。とても意義のある仕事」と強調した。

南仙台ボーイズでキャプテンを務める菅原一希くん（岩切中1年）は「建設業が社会にとってとても大事だということがわかった」と話した。

2016年6月17日掲載　日刊建設新聞



少年たちに工事概要を説明する矢野所長(右)

深松組　未来の担い手へ魅力説く

野球少年が現場勉強会

深松組（仙台市青葉区・深松努代表取締役社長）は15日、小・中・高校生を対象に建設業現場の見学会と勉強会を開催した。参加したのは、少年野球チーム「南仙台ボーイズ」の選手やその父兄計25人。同社は、建設産業で担い手の確保・育成が課題となっている現状を踏まえ、将来の職業選択の一つとなるようにと、少年たちに建設業の果たす役割とその魅力を伝えた。

□

当日、同社が施工を請け負う名取市の閖上下流工区堤防災害復旧工事の現場に、小学生から高校生まで22人と、監督の色川冬馬氏、父兄らが訪れた。同社の矢野拓見閖上作業所長が被災地の現状や堤防の仕組み、復旧工事の手順などを解説した。

その後、現場事務所に場所を移し、深松社長による講話・勉強会を開催。深松社長は、公共事業から東日本大震災などの災害を例に、日本を支える地域建設業の使命やその役割、近い将来担い手が不足する現状を説明した。

大震災の活動では、道路啓開やがれき処理、遺体の埋葬など報道されなかった建設企業の活躍を紹介。少年たちは、建物や道路を造るだけではない建設業の使命を知り驚いた様子で真剣に聴き入っていた。

深松社長

深松社長は「建設業は人の命を救い、文明を支える素晴らしい産業だ。いざという時は縁の下の力持ちにもなる」とやりがいを伝えた。

質問・感想コーナーでは、小学生から建設業を始めたきっかけを問われ、「もともとは祖父が作った会社。自然と働き始めた。宮城・仙台のためにという思いでいる」と答えた。

少年たちへ「失敗を恐れず、とにかくなんでもチャレンジしてほしい。そうすれば心が強くなり、なんでもできるようになる」とエールを贈った。

仙台工業高校土木科の生徒は「授業では人のためになる仕事だということがなかなか感じ取れない。とてもいい機会になった」と感想を述べた。

南仙台ボーイズは、ことし4月に始動した仙台市を拠点とする硬式野球チーム。野球のみならず、地域教育関係機関や団体と協力し、アスリートとして必要な資質を身につける各種事業を展開。深松組での現場見学・勉強会もその一環で、企業の経営者や他競技の指導者らと交流し知見を広げている。

深松社長は、色川氏とある会合で知り合ったのをきっかけに、25年から同氏が日本代表監督を務める少年野球チームのラテンアメリカ選手権大会の渡航費などを支援。親交を深めてきた。

FUKAMATSU